



生駒市立鹿ノ台小学校

# 鹿小だより



鹿ノ台ノページ

令和 6年 9月 3日

第 10 号

## 令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果のお知らせ I

今年 4 月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が 7 月末に発表されました。

本校と奈良県、全国の平均は表のとおりです。学力調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証、改善を図ることを目的としているため、教科の平均点の上下で一喜一憂するためのものでは

	本校	奈良	全国
国 語	69	67	67.7
算 数	71	63	63.4

はありませんが、学校の児童への学習指導の充実や学

習状況の改善に役立つ資料になります。今年度の結果を見ながら、子どもたちに付

きたい学力が何で、本校はどんなところが苦手なのかを考え、今後の指導に活かして



### 【国 語】

国語は全国平均、奈良県平均を上回りました。

問題によって、出題趣旨や観点、出題形式が異なります。本校の児童は、どんな出題形式や観点が得意または苦手だったのでしょうか。

全国的に、「前年度と同じく学習指導要領が重視する『思考・判断・表現力』を測る設問、特に記述式の問題で平均正答率が低くなる傾向」(毎日新聞 7 月 30 日付 11 面) にあり、本校においてもその点での違いはありません。

表(1)

		鹿小	全国	全国との差
国 語 全 体		69	67.7	(+2.2)
観 点	知識 技能	71.9	69.8	(+2.1)
	思考判断表現	67.4	66.0	(+1.4)
	(書くこと)	66.8	68.4	(▲1.6)
	(読むこと)	75.0	70.7	(+4.3)
出 題 形 式	選択式	72.1	69.9	(+2.2)
	短答式	61.4	59.7	(+1.7)
	記述式	63.6	64.6	(▲1.0)

### (理由を書いたり自分の意見を考えまとめて表現したりすることに課題)

本校の特徴として、「思考・判断・表現」の中の「読むこと」は高いが「書くこと」が低くなる傾向にあるようです。出題形式別にみても、選択式よりも記述式が低く、全国平均を下回りました。

表(2)

設問番号	形式	観点	鹿小	全国	全国との差
問題2二	記述式	思考判断表現	53.3	56.6	▲3.3
問題3三	記述式	思考判断表現	73.9	72.6	+1.3



記述式の問題は、示された条件をすべて満たすように解答しなくてはなりません。

たとえば、問題文の取材メモをもとに「たてわり遊び」のよさを書く問題(問題2の二)では、字数制限のほかに、①「たてわり遊びのよさについて考えたことを書くこと」②「取材メモの中から言葉や文を取り上げて書くこと」といった2つの条件が課されています。しかし、本校児童の解答類型別の割合を見てみると、条件をすべて満たして書くことができていない人は 53.3(全国 56.3)%で、

生駒市立学校の調査結果について(生駒市教育委員会)

<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000004/4287/R6gakuryokujoukyoucyousakekkabunnseki.pdf>



条件②は満たしているけれど①を書けていない人が35%弱(本校)いました。この問題は、資料から分かる事実と意見を書く問題ですが、与えられた資料の「取材メモ」を上手に取り上げて「事実」は書けているけれど、そこから考えられる「たてわり遊びのよさ」(意見)を書くことがうまくできなかつたようです。無解答率は、2.2(全国4.9)%ですから、たくさん子どもたちがなんとか書いて答えてみようとなつたのが伺えます。



### 〔与えられた資料や本文を活用し参考にしながら書くことは得意〕

一方、問題3の三は、同じく記述式の問題ですが、73.9(全国72.6)%と高い正答率でした。この問題では、物語の中の言葉や文を引用しながら、心に残つたところとその理由を話し合う児童の様子を示した資料を参考に、自分(解答する児童本人)が物語を読んで心に残つたところとその理由を書く問題になっています。解答にあたっては、話し合う児童の様子が示されている資料が手掛かりになるため、他の記述式問題よりも取り組みやすかつたと思われます。字数制限



のほか、①『心に残つたところ』と『心に残つた理由』を書くこと、②「物語から言葉や文を取り上げて書くこと」の2つの条件が示されていますが、誤答の多くは、条件①の「理由」が書けていませんでした。「心に残つたところ」など、物語の記述(事実)を取り出せても、理由(意見)を書くことが難しいようでした。

こうして見てくると、わずか2問だけで一概には言えませんが、理由を書いたり自分の意見を考えまとめて表現したりすることにはまだ課題はあるものの、与えられた資料や本文を上手に活用し、参考にしながら書くことはできていると言えそうです。文部科学省・国立教育政策研究所が発表した調査の結果概要資料では、「事実と感想、意見とを明確に区別できず、考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題がみられた」と分析し、指導にあたっては引き続き、子ども一人ひとりが「どのような資質・能力を働かせるか」といのかを意識して学習」に取り組めるようにすることが大切だとしています。

### 〔無解答率やや減少 書くことへの抵抗感減少?〕

ちなみに、記述式の無解答率は、問題2二はわずか2.2(全国4.9)%で、問題3三が16.3(全国12.6)%でした。児童質問紙調査では、国語の問題の解答時間について、「足りなかつた」と回答した児童は51.0(全国27.7)%と半数を超えました。45分間のテストの最終問題です。しかも、長い物語や資料など相当な文章量を読みこんでたどり着いた終わり際に出題された100字の記述式です。書ききれなかつた児童もいたことでしょう。それでも、記述式の無解答率が減少したことは、書くことへの抵抗感がなくなつてきたとも言えます。いずれにせよ、時間的余裕のある中で、あらためて解答するとまた違つた結果となつたかもしれません。



### 〔表現力の育成と発信する場の充実をめざして〕

昨年度実施した学校評価の児童アンケートでは、自分の考えを上手に伝えることができていると感じたり(“できる、どちらかといえばできる”の合計80%)、説明すること、表現することが好きだと思つたりする児童が増えてきています(74%)。また、鹿ノ台小学校では、重点目標の1つに「書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実」を挙げ、授業の研究や実践に取り組んでいます。引き続き、自分の考えを表現し伝える活動を授業の中に位置づけ、意識をして今後も取り組んでいきます。

